

各部の名称とはたらき

[VOLUME] つまみ

LINE OUT 端子と PHONES 端子の音量を調節します。

[MIC SENS] つまみ

MIC IN 端子（フロント／リア）に接続したマイクの、入力感度を調節します。

[ROBOT] ボタン

ロボットのような、一定のピッチ（音の高さ）に固定された抑揚のない声に変化します。

[MEGAPHONE] ボタン

メガホンを使ったような、歪みのある声に変化します。

PEAK インジケーター

マイクの入力レベルが大きすぎると点灯します。
時々点灯する程度に、[MIC SENS] つまみで感度を調節します。

[KEY] つまみ

[ROBOT] ボタンや [AUTO PITCH] つまみで効果をかけるときのキーを設定します（P. 5）。

[BYPASS] ボタン

エフェクト（リバーブを含む）が無効になります。

[MANUAL] ボタン

現在のスライダーや [AUTO PITCH] つまみの設定が、音に反映されます。



本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に別紙の『安全上のご注意』と『使用上のご注意』をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2018 Roland Corporation

各部の名称とはたらき

[FORMANT] スライダー

声のフォルマントを調節します。
－（マイナス）にするほど男性的な声質に、＋（プラス）にするほど女性的な声質に変化します。

[PITCH] スライダー

声のピッチを調節します。
上下1オクターブの範囲で変化させることができます。

[VOCODER] ボタン

ボコーダー・ボイスに変化します。

[AUTO PITCH] つまみ

ピッチを補正します。
[KEY] つまみで設定したキーに合わせて、ダンス・ミュージック特有の、しゃくり上げるような声に変化させることができます。
つまみを右に回すほど、補正量が大きくなります。
「OFF」にすると、補正はかかりません。

シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタン

エフェクトの設定（シーン）を呼び出します。
呼び出したシーン・メモリー・ボタンが点灯します。シーンは8つまで保存できます。
→『エフェクトの設定を呼び出す（シーン・メモリー）』（P.6）

[BALANCE] スライダー

普通の声（NORMAL）とエフェクトをかけた声（EFFECT）のバランスを調節します。

[REVERB] スライダー

リバーブ（残響）の量を調節します。

[HARMONY] ボタン

声にハーモニーを加えます。

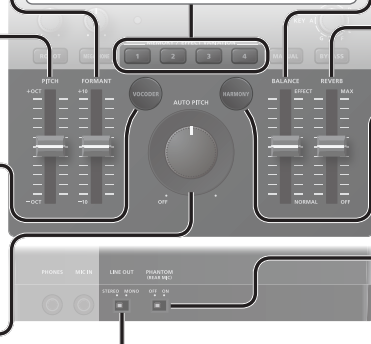
[PHANTOM] スイッチ

MIC IN 端子（リア）に、ファンタム電源を供給する場合は「ON」にします。
※ TRS 標準プラグにはファンタム電源は供給されません。

[LINE OUT] スイッチ

LINE OUT 端子から出力する音声を切り替えます。

STEREO	ステレオ音声で出力されます。
MONO	エフェクトのかかった音（L/MONO）とかかかっていない音（R/BYPASS）が、別々に出力されます。



接続する

PHONES 端子

ヘッドホン（別売）を接続します。

フロント・パネル



MIC IN 端子（フロント）

プラグイン・パワーに対応したマイク（別売）を接続します。
※ プラグイン・パワーに対応したマイク専用です。

リア・パネル



LINE OUT 端子

アンプやモニター・スピーカーに接続します。

[POWER] スイッチ

電源を入れる

正しく接続したら、**本機 → 接続した機器の順に電源を入れてください。**
電源を切るときは、接続した機器 → 本機の順に電源を切ってください。

メモ

本機は、USB バス電源または電池で動作します。
電池で動作させる場合は、あらかじめ電池を入れておきます（P. 12）。

MIDI IN 端子

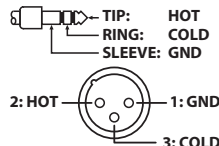
MIDI 機器を接続します。
入力したノート情報で、ロボット・ボイスなどを演奏することができます（P. 5）。

USB (≡) 端子

パソコンと市販の USB2.0 ケーブルで接続すると、USB オーディオ・インターフェースとして使うことができます。
※ USB バス電源供給時は、USB バス電源で動作します。

MIC IN 端子（リア）

マイク（別売）を接続します。
コンデンサー・マイクを XLR 端子で接続するときは、ファンタム電源を供給できます（P. 2）。
※ MIC IN 端子（リア）のピン配置



- ※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。
※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

声を変化させる

エフェクトをかける

1. マイクを MIC IN 端子（フロントまたはリア）に接続します。
※ コンデンサー・マイクを MIC IN 端子（リア）に XLR コネクターで接続したときは、[PHANTOM] スイッチをオンにします。
2. [BYPASS] ボタンをオンにします。
3. マイクに音声を入力しながら、[MIC SENS] つまみで入力感を調節します。
PEAK インジケーターが時々点灯する程度に調節します。
※ 入力感度は、正確に調節してください。マイクの入力レベルが低すぎたり、高すぎたりすると、エフェクトが正しく動作しません。
4. シーン・メモリー・ボタンを押して、シーン（P. 6）を呼び出します。
5. [BYPASS] ボタンをオフにします。
6. マイクに音声を入力します。
エフェクトのかかった音声が出力されます。
※ マイクに音声を入力するときは、1 人の音声だけを入力してください。複数の音声が入力されると、正しく動作しません。
※ スピーカーからの音声が入力しないようにしてください。

メモ

ハウリングするときは、ノイズ・ゲートを設定します（P. 7）。

エフェクトを設定する

1. [MANUAL] ボタンを押します。
シーン・メモリー・ボタンを押して、保存されたシーンを元に、エフェクトを設定することもできます（P. 6）。
2. 操作子（ボタン／つまみ／スライダー）で、エフェクトを設定します。

操作子	説明
[ROBOT] *1	ロボットをイメージした、一定のピッチに固定された抑揚のない声になります。
[MEGAPHONE] *1	メガホンを使ったような、歪みのある声になります。
[VOCODER] *1	ボコーダー・ボイスです。
[HARMONY] *1	声にハーモニーを加えることができます。
[AUTO PITCH]	ピッチが補正された声になります。
[KEY]	[ROBOT] ボタンや [AUTO PITCH] つまみで効果をかけるときのキーを設定します（P. 5）。
[PITCH]	声のピッチを調節します。
[FORMANT]	声のフォルマントを調節します。
[BALANCE]	普通の声（NORMAL）とエフェクトをかけた声（EFFECT）のバランスを調節します。
[REVERB] *1	リバーブ（残響）の量を調節します。

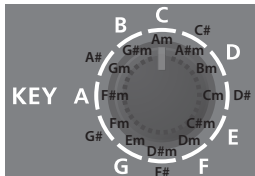
*1 各エフェクト・ボタンなどを押しながらシーン・メモリー・ボタンを押して、エフェクトのバリエーションを選ぶことができます。

➡『エフェクト・バリエーション一覧』(P.11)

3. 必要に応じて、エフェクトの設定をシーン・メモリー・ボタンに保存します (P. 6)。

[KEY] つまみでキーを設定する

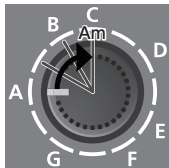
[ROBOT] ボタンや [AUTO PITCH] つまみで効果をかけるときのキーを設定することができます。



メモ

マイナー・スケールに設定するには、設定したいキーの表示から、右に3クリック回します。

たとえば、キーを「Am」に設定したい場合は、「A」の位置から右に3クリック回して、「C」の位置にします。



MIDI IN 端子にノート情報を入力する

MIDI IN 端子から入力したノート情報で、ロボット・ボイスを演奏することができます。また、ボコーダー・ボイスで演奏したり、ハーモニーの構成音を生成したりすることもできます。

1. MIDI キーボードなどの MIDI 機器を、MIDI IN 端子に接続します。

2. MIDI 機器でノート情報を入力しながら、マイクに音声を入力します。

VT-4 がロボット・ボイス ([ROBOT] ボタン点灯) になり、入力されたノート情報でロボット・ボイスが発音します (自動的にロボット・ボイスがオン)。

3. ハーモニーを加えたいときは、[HARMONY] ボタンをオンにして、音声を入力します。

入力されたノート情報を元に、最大 4 音のハーモニーで発音します ([HARMONY] ボタンをオンにすると、和音 (POLY) モードになります)。

4. ボコーダー・ボイスで演奏したいときは、[VOCODER] ボタンをオンにして、音声を入力します。

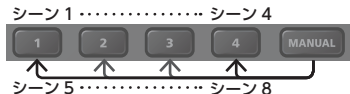
※ ロボット・ボイスを解除する場合は、[ROBOT] ボタンを押します ([ROBOT] ボタン消灯)。

※ ノート情報の入力中は、[KEY] つまみと [AUTO PITCH] つまみの設定は無効になります。

エフェクトの設定を呼び出す (シーン・メモリー)

シーン・メモリー・ボタンに保存したエフェクトの設定 (シーン) を、瞬時に呼び出すことができます。

シーンは 8 つ保存することができます。



メモ

シーン・メモリーは、パソコンにバックアップすることができます (P. 10)。

シーンを呼び出す

1. 呼び出したいシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押します。

シーン・メモリー・ボタンが点灯し、エフェクトの設定 (シーン) が呼び出されます。

シーン 5 ～ 8 を呼び出すときは、[MANUAL] ボタンを押しながらシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押します。

たとえば、シーン 5 を呼び出すときは、[MANUAL] ボタンを押しながらシーン・メモリー [1] ボタンを押します ([MANUAL] ボタンがゆっくり点滅)。

- ※ シーンを呼び出したときは、現在の、スライダー／[AUTO PITCH] つまみ／[KEY] つまみの位置と、実際の音は一致していません。
- ※ シーンを呼び出したあとにエフェクトを調節すると、操作子の設定が音に反映されます。このとき、シーン・メモリー・ボタンが点滅します。

シーンを保存する

エフェクトの設定を、シーン・メモリー・ボタンに保存します。

1. 操作子で、エフェクトを調節します。
2. 保存させたいシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンのいずれかを押し続けます。

シーン・メモリー・ボタンがすべて点滅 → 消灯したら、保存完了です。

たとえば、シーン 5 に保存するときは、[MANUAL] ボタンを押しながらシーン・メモリー [1] ボタンを押し続けます。

シーンをコピーする

シーンを他の番号にコピーします。

1. コピーしたいシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押して、呼び出します。
2. コピー先のシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押し続けます。

シーン・メモリー・ボタンがすべて点滅 → 消灯したら、コピー完了です。

ハウリングを抑える（ノイズ・ゲート）

ノイズ・ゲートを設定することで、ハウリングを抑えることができます。

1. [MANUAL] ボタンを押しながら [VOCODER] ボタンを押します（[MANUAL] ボタンは押したまま）。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンが点灯します。
2. [MANUAL] ボタンを押したままシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押して、ノイズ・ゲートを設定します。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンの数字が大きくなるほど、ノイズ・ゲートの効果が大きくなります。

誤発音を防ぐ（ロー・カット・フィルター）

ロー・カット・フィルターを設定することで、周囲の低音（ドラムのキック音など）による VT-4 の誤発音を防ぐことができます。

1. [MANUAL] ボタンを押しながら [HARMONY] ボタンを押します（[MANUAL] ボタンは押したまま）。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンが点灯します。
2. [MANUAL] ボタンを押したままシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押して、ロー・カット・フィルターを設定します。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンの数字が大きくなるほど、ロー・カットする上限の周波数が大きくなります。

音をはっきりさせる（エンハンサー）

エンハンサーを設定することで、高域をはっきりとさせることができます。

1. [MANUAL] ボタンを押しながら [MEGAPHONE] ボタンを押します（[MANUAL] ボタンは押したまま）。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンが点灯します。
2. [MANUAL] ボタンを押したままシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンを押して、エンハンサーを設定します。
シーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンの数字が大きくなるほど、エンハンサーの効果が大きくなります。

USB オーディオ・インターフェースとして使う

パソコンと市販の USB2.0 ケーブルで接続すると、USB オーディオ・インターフェースとして使うことができます。

※ **パソコンに接続する前に、USB ドライバーをインストールする必要があります。**

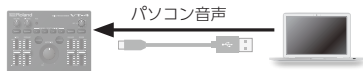
USB ドライバーは、ローランドのホームページからダウンロードしてください。

詳しくは、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をお読みください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

再生する

パソコンで再生した音声を、以下の経路で VT-4 から鳴らすことができます。



経路	説明
OUT (1-2)	LINE OUT 端子、PHONES 端子から出力されます (エフェクトはかかりません)。
TO MIC IN (3-4)	MIC IN 端子に入力された音声として、VT-4 から出力されます。
TO CARRIER (5-6)	ボコーダー・ボイスの土台となる信号 (音色とピッチ) に、USB ポートの「TO CARRIER」に入力された外部シンセサイザーの音を使うことができます。 External carrier (P. 9) を「オン」にして使います。

録音する

VT-4 でエフェクトをかけたマイクの音声を、パソコンで録音することができます。



音声	説明
MIX (1-2)	LINE OUT 端子の音声が入力されます。
WET (3-4)	エフェクトのかかった音声が入力されます。
DRY (5-6)	エフェクトのかかる前の音声が入力されます。

その他の機能を設定する

1. [ROBOT] ボタンを押しながら電源を入れます。
[MANUAL] ボタンが点滅します。
2. [KEY] つまみを回して、設定するパラメーターを選びます。

[KEY] つまみ	パラメーター	設定値	説明
C	MIDI channel	オムニ (0)、1 ~ 16Ch	MIDI の送受信チャンネルを設定します。

[KEY] つまみ	パラメーター	設定値	説明
C#	Pitch & Formant Routing	オフ、オン	常にピッチとフォルマントを変換する（オン）／しない（オフ）かを設定します。
D	Saver time	オフ (0)、1 ～ 20 分	スクリーンセーバーに入る時間を変更します。
D#	Mute Mode	オフ、オン	[BYPASS] ボタンを押すと、ミュートする（オン）／エフェクトをオフにする（オフ）かを設定します。
E	External carrier	オフ、オン	USB 経由で入力されるキャリア信号で、ボコーダーの効果をかける（オン）／かけない（オフ）かを設定します。
F	Formant depth	1 ～ 4	フォルマントが変化する範囲を設定します。
G	Monitor mode	オフ、オン	[VOLUME] つまみで PHONES 端子の音量のみ設定する（オン）／しない（オフ）かを設定します。 オンのときは、LINE OUT 端子の音量は固定になります。

[KEY] つまみ	パラメーター	設定値	説明
A	Playback level	0 ～ 20	USB オーディオの入力とマイク入力の音量バランスを調節します。
B	MIDI In Mode	オフ、オン	ノート情報を入力し終わった際にロボット・ボイスを維持する（オフ）／しない（オン）かを設定します。

3. 選んだパラメーターに応じて、設定を変更します。

操作	説明	
オン／オフの変更	オン	[HARMONY] ボタンを押す
	オフ	[VOCODER] ボタンを押す

操作	説明
値の変更	1 増やす [HARMONY] ボタンを押す
	1 減らす [VOCODER] ボタンを押す
	値の確認方法 点灯しているシーン・メモリー [1] ～ [4] ボタンの数値の合計が、1 の位になります。 値が 10 ～ 19 の場合は [MEGAPHONE] ボタン、20 の場合は [ROBOT] ボタンも点灯します。 たとえば、値が「18」のときは、シーン・メモリー [1]、[3]、[4] ボタンと [MEGAPHONE] ボタンが点灯します。
	

4. 設定が完了したら、[MANUAL] ボタンを押します。
設定が保存されます。

シーンメモリーをバックアップ／リストアする

シーン・メモリーを、パソコンにバックアップ／パソコンからリストアすることができます。

バックアップする

- VT-4 の電源を切った状態で、VT-4 とパソコンを USB ケーブルで接続します。
- [VOCODER] ボタンを押しながら電源を入れます。

[ROBOT] ボタンと [BYPASS] ボタンが点灯し、シーン・メモリー・ボタン～ [MANUAL] ボタンが左右に動きながら点滅します。

3. パソコン側で「VT-4」ドライブを開きます。

4. BACKUP フォルダー内のバックアップ・ファイルを、パソコンへコピーします。

バックアップ・ファイル	VT4_PATCH1.PRM (シーン 1) ～ VT4_PATCH8.PRM (シーン 8)
-------------	--

5. コピーが完了したら、パソコン上で USB ドライブの取り出しをします。

6. 電源を入れ直します。

リストアする

- 『バックアップする』(P.10) の手順に従って、パソコン側で「VT-4」ドライブを開きます。
- RESTORE フォルダー内に、パソコンのバックアップ・ファイルをコピーします。
- コピーが完了したら、パソコン上で USB ドライブの取り出しをします。
- [MANUAL] ボタンを押します。
- 点滅しているボタンが消灯したら、電源を入れ直します。

USB 接続時でも電池駆動で動作させる

VT-4 と MX-1 (Mix Performer) を AIRA LINK で使用するときなど、USB バス電源非対応の USB 端子に接続する場合は、VT-4 を電池駆動モードにして使います。

1. [HARMONY] ボタンを押しながら電源を入れます。

VT-4 が電池駆動モードになります。

通常のモードに戻すときは、電源を入れ直します。

工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)

VT-4 を工場出荷時の設定に戻します。

1. [BYPASS] ボタンを押しながら電源を入れます。

[MANUAL] ボタンが点滅します。

ファクトリー・リセットをキャンセルする場合は、電源を切ります。

2. [MANUAL] ボタンを押して、ファクトリー・リセットを実行します。

3. すべてのボタンが点滅したら、電源を入れ直します。

エフェクト・バリエーション一覧

エフェクト・ボタン (押しながら) + シーン・メモリー・ボタン		エフェクト・バリエーション
[ROBOT]	[1]	NORMAL
	[2]	OCTAVE -1
	[3]	OCTAVE +1
	[4]	FEEDBACK
[MEGAPHONE]	[1]	MEGAPHONE
	[2]	RADIO
	[3]	BBD CHORUS
	[4]	STROBO
[VOCODER]	[1]	ADVANCED
	[2]	VP
	[3]	TALK BOX
	[4]	SPELL TOY
[HARMONY]	[1]	+5
	[2]	+3
	[3]	+3、-4
	[4]	+3、+5
[BYPASS] (リバーブ)	[1]	REVERB
	[2]	ECHO
	[3]	TEMPO DELAY
	[4]	DUB ECHO

メモ

エフェクト・ボタンを押し続けると、現在選んでいるエフェクト・バリエーションを確認することができます (シーン・メモリー・ボタン点滅)。

電池を入れる

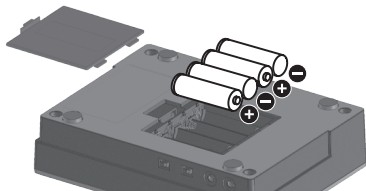
USB バス電源以外に、市販の単 3 形ニッケル水素電池またはアルカリ電池を使って使用することができます。

※ USB バス電源供給時は、電池を入れていても USB バス電源で動作します。

1. バッテリー・カバーをはずします。

※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

2. 電池の向きに注意して、電池をバッテリー・ケースに入れます。



3. バッテリー・カバーを閉めます。

※ 電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりする恐れがあります。「安全上のご注意」チラシに記載の電池に関する注意事項を守って正しくお使いください。

電池の交換時期 (PEAK インジケーター)

電池が消耗してくると、PEAK インジケーターが高速点滅します。その場合は、新しい電池と交換してください。

主な仕様

ローランド VT-4 : ボイス・トランスフォーマー

電源	充電式ニッケル水素電池またはアルカリ電池 (単 3 形) × 4、USB 端子より取得 (USB バス電源)
消費電流	500mA
連続使用時の電池の寿命	充電式ニッケル水素電池： 約 7 時間 (ファンタム電源：オフ) 約 5.5 時間 (ファンタム電源：オン) アルカリ電池： 約 6 時間 (ファンタム電源：オフ) 約 4 時間 (ファンタム電源：オン) ※ 電池の仕様や使用状態によって異なります。
外形寸法	174 (幅) × 133 (奥行) × 58 (高さ) mm
質量 (電池含む)	554g
付属品	取扱説明書、「安全上のご注意」チラシ、アルカリ電池 (単 3 形) × 4、保証書、ローランド ユーザー登録カード

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

ローランド株式会社

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1